

## 第5回中野区ユニバーサルデザイン推進審議会 議事録

### 日時

令和5年6月9日（金） 午後7時から午後9時まで

### 場所

中野区役所 7階 第8・9会議室（オンライン併用）

### 出席委員（13名） ※オンライン参加者

徳田良英（会長）／山崎泰広（副会長）／市原恭代／伊藤勝昭／大野永美子／  
倉知和美／白岩裕子／新家愛※／瀬田敏幸／高橋博行／出竹美奈／  
マッケンジー臣恵※／矢島和行

### 事務局

企画部長 岩浅英樹  
企画部ユニバーサルデザイン推進担当課長 国分雄樹  
企画部企画課平和・人権・男女共同参画係員 2名

### 徳田会長

定刻になりましたので、第5回中野区ユニバーサルデザイン推進審議会を開催します。本日もみなさまから多くの意見をいただければと考えています。よろしく申し上げます。

本日の出席状況は13名の出席で過半数に達しています。中野区ユニバーサルデザイン推進審議会規則第4条第2項の規定に従いまして、有効に成立していることを確認しました。

続きまして、本日の配付資料の説明と発言方法の確認を事務局から申し上げます。

### 国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

（配布資料及び発言方法の説明）

### 徳田会長

本日の意見を踏まえて答申を確定し、私と副会長から区長に答申を提出します。本日が審議会として集まるのが最後になる予定です。

それでは、答申案の最初から確認していきます。可能な限りこの場で、修正が必要な箇所やお気づきの点をどのように修正していくか確定したいと思いますので、よろしく申し上げます。なお、確定できなかった場合には、会長と副会長預かりとしたいと思いますので、ご了承をお願いします。

資料1の2ページ「基本的な考え方」をご覧ください。こちらでお気づきの点がございましたらお願いしたいと思います。

## 山崎副会長

『障害の「医学モデル」から「社会モデル」へ』のイラスト部分を今回入れてもらったのですが、階段を上れないことが問題ではなく、身体に障害のあることが問題なので、表現を変えてほしいです。

DETトレーニング等では、車いすの女の子単体の写真を見せて、「障害とは何ですか」と問いかけ、多くの場合、「歩けないこと」や「車いすに乗っていること」だと「医学モデル」の考え方から受講者が回答します。そのあと、階段と車いすの女の子の写真を見せると、問題は「階段があることで、上に行けないことが障害」と言います。そうやって考え方の違いを感じてもらいます。「医学モデル」では、階段を上れないことではなく、階段を上れない理由が障害のあることだと言いたいです。

## 徳田会長

この絵の階段は、あくまでも例ですね。

例えば、「医学モデル」を「階段を上れないのは、車いすに乗っている人自身に身体の障害があるため」と修正するのはいかがでしょうか。

## 山崎副会長

その場合、「階段の例」と書いた方がよいです。階段はあくまでよく使われる例示で、階段を上がる以外にも、様々なことができないのは心身の障害に起因するというのが「医学モデル」、対応する環境になっていないというのが「社会モデル」なので、そこをまとめられるとよいです。区議会議員の方たちにも分かってもらえるように説明をしたいと思います。

「階段を上れない」は、入れなくてもよいかもしれません。例えば、「医学モデル」を「何かできないことがあるのは、心身に障害があることが原因」として、「社会モデル」を「障害は個人の心身機能だけではなく、その人を取り巻く環境、社会によって作られている」のようなイメージです。

障害の中に知的障害の人もいます。知的障害の人が理解できないのは、その人に分かるようになっていないことや、教えていないことがあります。階段だけの話にせず、大きい話として受け取れるようにしたいです。

## 市原委員

色弱を研究したとき、「障害」の言葉が問題になり、できれば「障害」や「障害者」という言葉を使ってほしくないという意見が出ました。ただ、それらの言葉をなくすと、障

害解消のための予算を組んでももらえません。そのときには、社会側に障害があるという考え方で進め、色弱に対するカラーユニバーサルデザインの予算を経済産業省に組んでもらいました。

この資料で「階段しかない」と書いていることが問題だと思います。「階段以外の方法があれば、障害はなくなる」という書きの方が好ましいと思います。

## 徳田会長

この部分は後で確定させることにしましょう。

今の市原委員のお話と関連すると、「障害」の「害」の字をどうするかという問題があります。これは様々な方の様々な思いがあります。デリケートなお話かと思いますが、高橋委員いかがでしょうか。

## 高橋委員

私の場合、文字を見て違和感を抱くことや不快のニュアンスがないのですが、最近、「害」という字を平仮名で表記する団体や個人が多くなっているような印象は受けています。

## 徳田会長

法律の用語では、今書いてある「害」の漢字です。法律の用語と統一してもかまわないと思いますし、委員の方々に気持ちがある方がいらっしゃったらそちらで、と思います。

## 山崎副会長

これは本当に個人によりますね。多くの障害のある方と会っていますが、スポーツ選手は気にしていない人が多い一方で、こだわっている人もいます。そのため、中野区が他で使っている表記と合わせるのもひとつの手だと思います。若しくは、「法律に合わせてこの表記にしました」というように、補足を書いてもよいかもしれません。

## 伊藤委員

「医学モデル」と「社会モデル」の説明がしっかりと加えられているので、今のままでもよいのではないかと思います。

## 山崎副会長

説明があるので、障害が悪いという意味で使っていないことが分かってもらえると思います。

## 徳田会長

では、今のままにしましょう。

続きまして、「評価と点検」部分で意見がありましたら、お願いします。

## 山崎副会長

6 ページの一番下の段落を、民間事業所の理解は進んでいることを入れてほしいと、変えてもらいました。ただ、数字が並んでいるのを見ても、理解が進んでいるのかいないのかが分かりません。前年度や、ユニバーサルデザイン推進計画が始まってからの比較を入れられるとよいと思います。

7 ページの段落に、「多くの事業所にとって事業利益向上や社会貢献等につながる」という部分があります。ここをもう少し説明した方が分かりやすくなると思います。ユニバーサルデザインとバリアフリーは障害者対策だけではなく、高齢者や妊婦さん、子ども連れ等にも対応することであるので、事業利益向上や社会貢献等につながるというような説明が入ると分かりやすくなります。障害者対策だけだと思われてしまうと、「どうして障害者対策で儲（もう）かるのか」と言われてしまうことがあり、ユニバーサルデザインの対象は全ての人だと説明したいと思いました。

## 徳田会長

『「ハード」の視点から』まででその他意見がありましたらお願いします。

## 大野委員

「社会の大きな変化の視点から」の部分に、「時代の要請に合わせ、ユニバーサルデザインのあり方も変化していることから、最新のユニバーサルデザインに更新しながら推進していく必要があります」の文言があります。古い時代のマニュアルで整備すると古くなってしまうので、『「ハード」の視点から』にもこの記載を入れたらどうかと考えました。マニュアルを更新すると同時に、整備の更新も大事だということを、前半のどこかに入れた方が分かりやすいと思います。

## 徳田会長

事務局にお聞きします。先ほど山崎副会長から、数字が多いのか少ないのか、これだけでは判断がつかないとの意見がありましたが、前年度のデータ等はあるのでしょうか。

## 国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

今回初めて実施した調査のため、前年度以前のデータはありません。

また、ここで数字を出しているのは、その数字が高い、低いという話ではなく、認知度と導入率の比較の意味で記載しています。

## 徳田会長

分かりました。以前のデータがないので更新が難しいということと、文意も了解しました。

それでは、『「ソフト」の視点から』に進みます。お気づきの点はございますでしょうか。

## 矢島委員

9ページの2段落目の「また、地域で気軽に楽しく学べる場づくり」について、主語を加えた方が分かりやすいと思いました。

## 徳田会長

「中野区では」もしくは「区では」と加えましょう。

## 山崎副会長

8ページの一番下に「障害のある人や言語の違いで」の部分を、読む方たちにイメージを抱いていただくためにもう少し詳しく記載するとよいと思いました。「障害」は身体障害の人をイメージしてしまいやすいと思います。視覚障害、聴覚障害、知的障害等もここに入ることが伝わるような言葉を入れた方がよいと思いました。

## 徳田会長

7ページの「事業利益の向上」のところで、前回関東バスの小川委員から、民間事業者の方にとってはコストが上がってしまうのではと心配があるとお話がありました。

障害者差別解消法の合理的配慮は、無理はせず、できる範囲での合理的な配慮をすることが本来的な意味合いで、事業者に過度な負担までは求めていませんが、まだ誤解されているように感じています。ここに補足の説明があると分かりやすいと思います。

続きまして、『「ハート」の視点から』に進みます。お気づきな点はありますか。

## 山崎副会長

2段落目の「すべての職員が日常業務に活用できるような工夫が必要です」の「工夫」が、ただ考えるだけではなくて実際に一歩踏み込んで形をつくってほしいという意味だと「しくみ」かなと思いました。

また、11ページに「違いを理解する考え方は教育環境づくりにも大切です」とあります。ユニバーサルデザイン2020の心のバリアフリーでは、学校はもちろん、企業での教育、商店や自治体等の取り組みが入っていますので、ここでも学校だけだと思われぬ方がよいと思いました。例えば、「企業・商店」のようにすると分かりやすいと思います。

## 徳田会長

「工夫」という言葉を「しくみ」にしましょう。

また、11ページの下の段落に「行政や学校だけでなく」と書いてはありますけれども、地域の民間事業者にも頑張ってもらいたいということで、少しボリュームを増やしてもよいですね。

## 新家委員

10ページの2段落を「しくみ」にするなら、3段落目も最後に「工夫」という言葉を使っているので、ここも併せて考えてもよいと思いました。

## 徳田会長

そうですね。ここの部分も考えましょう。事務局いかがでしょうか。

## 岩浅企画部長

例えば「ユニバーサルデザインの考え方を広げ、知る機会の創出についてさらなる取り組みを望みます」などはいかがでしょうか。

## 徳田会長

今提案してもらいましたが、いかがでしょうか。特にないようですので、「工夫」を「取り組み」として、文章を整えることにしたいと思います。

続きまして、「社会の大きな変化の視点から」の部分に進みます。

12ページ4行目の「ユニバーサルデザインの街づくり」の「街」の文字は、ユニバーサルデザイン2020行動計画で使っている文言と合わせているという理解でよろしいですか。

## 国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

そのとおりです。

## 徳田会長

それならば、このままでよいですね。

続きまして、「中野駅周辺等のまちづくりの進展を踏まえた環境整備」と「DX推進によるサービス向上」に進みます。

## マッケンジー委員

14ページの3段落目最後の「すべての人にとって利便性が向上すると考えます」は、文章のつながりを考えて、「すべての人」ではなく「多くの人」に修正した方がよいと思います。

## 徳田会長

そうですね。「多くの人」に修正しましょう。

## 高橋委員

「中野駅周辺等のまちづくりの進展を踏まえた環境整備」の部分です。今回の答申に「点字」や「点図」の言葉がありません。点字や点図は、視覚障害者の文字、文化なので、「併せて表示を大きくする等、利用者がわかりやすい案内サインやピクトグラムの配置が求められます」のところにに入れてもらいたいと思うのですが、いかがでしょうか。

例えば、「表示を大きくする、点字表記等」あるいは「点字表記や表示を大きくする等」とするのはいかがでしょうか。見えにくさがあるロービジョンの方だけでなく、高齢者にも有用である「表示を大きくする」ことが含まれていますが、触覚認識できるものが今の書き方だとピンとこない気がするという意見です。

## 山崎副会長

すごく理解できます。私が先ほど『「ソフト」の視点』で、8ページ最後の段落の「障害のある人」に、視覚障害や聴覚障害なども入れてほしいと言ったのは、読んだ人にイメージをしてほしいという意味でした。

今、高橋委員の指摘したところも同じように少し詳しく言うと、読む方たちがもっとイメージしやすくなってよいと思います。点字自体は視覚障害の方だけのものなので、ユニバーサルデザインと言うかは分かりませんが、視覚障害者が人が理解できるものを何か入れるとよいと思います。

## 大野委員

具体的に「トークサイン」や「触地図（しょくちず）」の言葉を入れるのはいかがでしょうか。

## 山崎副会長

選択肢としてそういうものを提供することはユニバーサルデザインなので、入れられるとは思いますが。私はもう少し大きな言い方で、「視覚障害者、聴覚障害者」のように例示を出して、この方々も分かるような言い方でもよいかなと思いました。

## 徳田会長

同じページの2段落目の「視覚障害者誘導用ブロック等」が視覚障害に関する部分ですが、誘導ブロックだけの話では当然ないので、点字の話や聴覚障害の方の具体的なものも提示するとより分かりやすいですね。

## 伊藤委員

千代田区の公園にピクトグラムと点字を両方表示してあるトイレが2つくらいありました。そのような施設ができるのもよいことだと思います。

## 高橋委員

点字は視覚障害者用ですが、例えば、音声案内は一般の方々にも利用できるのもユニバーサルデザインと言えるでしょうか。

## 山崎副会長

知的障害の人や、英語や他の言語で案内する必要がある外国人など、音声も役立つこともありますね。「すべての人」と言うとあやふやになってしまうので、イメージしやすくしたいです。

## 徳田会長

点字は視覚障害者用でユニバーサルデザインではないから、と排除してしまうのは言い過ぎな気がします。全員が使えなかったらユニバーサルデザインではないとするのは少し無理があるので、必要としている方にとって個別に必要なものが整備されることによって、まち全体としてユニバーサルデザインになるという考えで、点字もユニバーサルデザインの一部だと考えるのがよいかもしれません。

## 山崎副会長

弱視の人でも、文字が大きい方がよい、コントラストがはっきりしている方がよい等あるので、それを全部含めた意味で視覚障害者の人にも対応するという書き方がよいと思いました。

## 徳田会長

2段落目の「視覚障害者誘導用ブロック」の文言は残しておいて、3段落目の「表示を大きくする等」の部分に、例示をあと2つぐらい入れておくとよろしいですかね。

## 山崎副会長

障害が多様であることや言語の壁がある人たちにとって社会が解決できていない課題が、認識されていることが分かるようにと表現できたらよいなと思います。



## 徳田会長

外国籍の人が増えてきている現状では、日本語だけでなく、他の言語の表記も、となりますかね。今、英語の表記は増えてきているとは思いますが、外国の方がお見えになることがこれから増えると思いますので、外国語の表記もあるとよいのかもしれない。

## 瀬田委員

JRは以前から、中野を含む首都圏で、英語と中国語とハングルを併記しているところが大多数です。その言語を更に増やすとなると、中野だけでも100か国以上の方がいるので難しく、比較的多くの方々が滞在している言語ということで英語、中国語、韓国語となります。

やさしい日本語は、外国の方だけでなく、誰にとってもやさしいです。これから先、これまで以上に、わかりやすいサインの一つとして、やさしい日本語による表記に取り組んでもらえると、わかりやすさという意味で普及の余地があると思います。

先ほどの点字の話ですが、いろいろな障害の方がいて、ユニバーサルデザインが全ての方にとっての分かりやすさややさしさを追求することであれば、視覚障害の方にも共通サインのようなものが、普及されていくのではないのかなと思います。それだけ国の往来がこれまで以上に物理的・時間的にも地球がどんどん狭くなる時代ですので、人々の交流がますます緊密になってきます。中野もそういうまちづくりを目指してほしいという思いがあります。

## 山崎副会長

自分で発言したことをもう一度考えていたのですが、ユニバーサルデザインは一つのことを全ての人に提供するのではなくて、そこに選択肢があってもよいとよく言われます。そう考えると、点字も当てはまると思います。ただ、点字サインだけ表記すると、他のいろいろな表記方法もある中で際立ってしまうかなと思って先ほどの発言をしました。みんなが分かるようにということが書けるとよいと思います。

## マッケンジー委員

点字のことを入れてもよいと考えます。「例えば、点字とピクトグラムの配置の併用」のように例として書くと、選択肢がたくさんあることを示せて点字が目立つこともなく、分かりやすく伝わるのではないかと思いました。

## 徳田会長

そうすると、ユニバーサルデザインになりますね。点字が必要な方にも、ピクトグラムが必要な方にもという意味合いになりますので、よいアイデアだと思います。

## 大野委員

電車で、ホームの案内が上り電車と下り電車で女性と男性の声を分けるするように、様々なところで音声の違いはもう既に活用されています。今後も有効に活用するという事で、トークサインという言い方でなくても、音声のことは入れた方がよいと考えます。他で、視覚や触覚のことは言っているので、聴覚の例も入れてはどうでしょうか。

## 高橋委員

みなさんは目で見ていらっしゃる方々ですので、気づいていないかもしれませんが、聴覚からの情報はたくさんあって、私たちも助かるし、恐らくみなさんの利便性も向上するのではないかと思います。

## 徳田会長

より具体的であれば、読んだ方が気が付いてもらえるかもしれません。

では、その他全体を見て何かありますでしょうか。

## 山崎副会長

ハートは心のバリアフリーのことで、すごく大切だと前回お話しして、最初の「基本的な考え方」に入ったので、すごくよいと思いますが、『「ハート」の重要性を高める』には心のバリアフリーが一言もないので、どこかに入れられないでしょうか。

僕も委員を務めた前回の審議会で、ハード、ソフト、ハートを決めましたが、当時は「心のバリアフリー」の言葉が普及していませんでした。今、心のバリアフリーの言葉が一般的になってきたので、例えば『一人一人の違いを知って理解しようとする「ハート（心のバリアフリー）」』のように、中野区の「ハート」と「心のバリアフリー」がイコールであると伝えた方がよいと思います。

## 徳田会長

余談ですが、先週UAEのドバイに滞在していました。妻は足が少し悪くて杖（つえ）をついているのですが、まちを歩いても、電車に乗っても、必ずアラブの方が寄ってきてくれて助けてくれました。みなさん本当にやさしくて、電車でも席を譲ってくれて、満員で少しでも困っているとみなさんで助けてくれました。

困っている方が目の前にいたら助けるハート、心のバリアフリーは大事だなとその時に実感しました。中野区でも困っている方がいると助けられるような心のゆとりがあって、それがふだんの生活の当たり前の所作であるとよいと思いました。

ハートのことで普段感じていることがありましたら、ぜひこの中にも入れ込んでいければと思いますが、いかがでしょうか。

## マッケンジー委員

心のバリアフリーはとても大切なワードだと思いますので、タイトルを『「ハート（心のバリアフリー）」の重要性を広める』としてもよいと思います。

## 徳田会長

とても大事な言葉なので、タイトルに入っていると共通理解としてよいですね。

## 瀬田委員

10、11ページで、一人一人の違いを理解する教育の推進や、違いを理解する考え方を育んでいく視点の話をしていてとてもよいと思いますが、現行計画41ページのハートの「違いを超えて尊重し合う心を育む教育環境づくり」の中には、不登校、日本語の適応が難しい小、中学生や、LGBT等、配慮しなければいけない一人一人のきめ細かな支援が書いてあります。徳田会長がドバイで経験されたことも一つの事例になると思いますが、この答申だけだと、違いを理解する考え方の浸透だけが大事と読めてしまうようで、もったいなく思います。せつかくの答申ですから、尊重して幸せの心を育むということも盛り込むと、さらに心のバリアフリーが大事だと強調されてよいのではないかと思います。

## 徳田会長

理解して、尊重するわけですね。とても大事な視点だと思いました。

## 山崎副会長

15ページの「社会的障壁のある人に支援が必要で、一方的に助けられるべき存在」という書き方を嫌がる人もいると思います。例えば、「助けられるだけの」はどうでしょうか。もちろん支援が必要な人がたくさんいますので、「助けられることもあるけれども、助けられるだけではない」と読めるとよいと思います。

## 徳田会長

「一方的に助けられるだけの存在」としましょうか。「だけ」という言葉が入ると、お互いに助け合う立場と対比したとき、よりコントラストが分かりやすいように思います。

## 出竹委員

9ページの「また、地域で気軽に楽しく学べる場作りについて取り組んでいます」の部分で、前回から「高齢者をはじめ」と修正してもらいました。「場」が、「機会」のことを言っているのか、「スペースとしての場」のことを言っているのか迷っています。また、「幅広く区民が参加できる方法」がどういうことを指しているのか疑問に思いました。

多様な人が集まれる居場所が、スペースや環境としてあればよいと思います。それが先ほど話に出た、いろいろな違いを尊重して、いろいろな人が交わってお互いを知る機会になるのかなと思っていました。

#### 徳田会長

機会も、スペースも両方必要であるということですね。今はどちらかと言うとスペースのお話になっているので、「機会」を意味することがどこかに文字としてあるとよいでしょうか。

#### 山崎副会長

その段落の1文目の「場」を「機会」に変えてもよいと思います。

#### 徳田会長

「希望する人が一緒になって活動できる機会が望まれます。地域の空きスペースの活用等も視野に入れ、幅広く区民が参加できる方策が必要です」のような表現にしましょう。

#### 大野委員

14ページの最後の段落ですが、「行政のDX推進とともに」なのか、「行政のDX推進に伴い」なのか疑問でした。

#### 徳田会長

「ともに」ではなく、「伴い」の方がよいですね。

#### 大野委員

6ページの下から2つ目の段落の「ユニバーサルデザインが十分に配慮された施設になるように」の部分に「最新のユニバーサルデザインに更新しながら」の言葉を入れてはどうかと先ほど提案しましたが、いかがでしょうか。日々技術が進歩しているのでその意向が入ればよいと考えています。

#### 徳田会長

文章がおかしくないか確認して入れましょう。

#### 矢島委員

13ページの「中野駅周辺等のまちづくり」の部分に、先ほど高橋委員から提案のあった点字等の記述を加えるということで、同様に6ページにもピクトグラムやサインと同じような表現があるので、こちらにも同じような記述をした方がよいと思います。

## 徳田会長

そうですね。同じように書いてあると強調されますので、そのようにしましょう。

ご意見は出尽くしましたでしょうか。かなり文言が整理されたと思います。長時間にわたってみなさまお疲れになったと思います。どうもありがとうございました。

これで5回にわたりました審議会は終わりとなります。本日の意見を踏まえて、私と副会長で提出します。今後につきましては、私と山崎副会長に一任していただければと思いますので何卒よろしくお祈いします。少し残った時間は、みなさまから一言ずつお話ししてもらおうことにしましょう。

(審議会委員 一言ずつ挨拶)

それでは、事務局から最後にご連絡がありましたらお願いします。

## 国分ユニバーサルデザイン推進担当課長

事務連絡です。今回の議事録も前回同様、委員のみなさまにご確認いただいた上で作成しますので、ご協力のほどお願いします。

本日答申の中で、会長副会長預かりとなった事項は事務局と会長、副会長で調整しますので、ご了承をお願いします。今月の下旬に、会長、副会長から区長に答申をいただく予定で進めます。その後、答申を受けてユニバーサルデザイン推進計画の改定に向けて検討を始めます。10月頃にこちらの改定計画の素案を作成する予定です。来年3月に改定する予定ですが、素案ができた段階で、委員のみなさまにメールでお送りしますので、ご意見をいただければと思います。よろしくお祈いします。

また、今回の答申とこれまでの審議会でのご意見は、今後の計画策定の際に十分に検討させていただきます。ご参加ありがとうございました。

## 徳田会長

それでは以上をもちまして、第5回中野区ユニバーサルデザイン推進審議会を閉会します。この審議会の答申が中野区のユニバーサルデザインの推進につながれば会長として大変うれしく思います。委員のみなさま、お疲れ様でした。

(午後9時閉会)